

教育長定例記者会見 会見録

日時：平成31年4月15日（月） 16時00分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・いじめ防止の授業のモデルプランの作成（発表）
- ・平成31年度第1回公開考古学講座の開催（発表）

質疑事項

- ・発表項目について
- ・定例会の議題について（博物館条例等について）

発表項目

（教育長）

今日、わたくしからは2件発表をさせていただきます。まず、1つ目がいじめ事例別ワークシートを活用したいじめ防止の授業のモデルプランの件です。4月は、三重県いじめ防止条例に定められたいじめ防止強化月間であり、年度当初、それから4月ということもあって、本日は、いじめ事例別ワークシートを活用したいじめ防止の授業のモデルプランの作成について、発表いたします。

県教育委員会では、国の「スクールロイヤーの活用に関する調査研究」事業を活用して、三重弁護士会と連携して、児童生徒が主体的にいじめの問題について考え、話し合い、学び合う授業の実施に向け、「いじめ事例別ワークシート」を活用したモデルプランを作成しました。机上に置かせて頂いております、ピンク色の2冊の冊子のうち、カラー刷りのものが、そのモデルプランです。モデルプランは、平成30年度に公立小中高等学校18校で実施してきた、いじめ防止のための出前授業を担当した弁護士や、有識者等から助言を得て作成したものであり、現在確認しているところでは、行政と弁護士会が連携していじめ防止の教材やモデルプランを作成しているのは、全国で本県だけという風に認識しております。弁護士によるいじめ防止のための出前授業の成果でございますけれども、毎回授業の前後に質問紙で児童生徒の意識の変容について確認をしております。3つ大きくありまして、まずいじめがどんなことか分かっているかというのについては授業の前と後で27ポイントも増えていると、いじめは解決できると思うかというのは18.5ポイント増えています。それから、いじめ防止のために自分にできることがあると思うかというアンケートには、20.4ポイント増えているという結果がでておりまして、弁護士の出前授業というのは児童生徒のいじめの問題に対する意識が大きく変容することに大きく関わってもらったんだなという風に考えているところがございます。お手元のモデルプランの冊子をご覧下さい。表紙をおめくりいただきますと、目次となっております。まず目次では、目的とねらい、それから授業をやる時の留意点、それから授業の進め方、それから指導例ということで、小中高の指導例といった構成になっております。指導例でちょっと

紹介をさせていただきますが、4ページをご覧くださいでしょうか。これは、小学校、中高学年用の事例でございますけれども、ここでは、実際にいじめ防止のための出前授業を担当した弁護士から「受け手の反応が異なるロールプレイを見て違いを考えることで話し合いが深まる」との助言を得て、3種類のロールプレイを見て児童が考え、話し合う内容を取り入れるなど、これまでの弁護士による出前授業の知見を取り入れております。続きまして、7ページと8ページの参考資料のところをご覧ください。参考資料のところでは、教員がいじめ防止のための授業をより効果的に進めていけるように、授業の中で児童生徒からの疑問に答えていくための「質問及び回答例」や、実際に多くの弁護士がいじめ予防授業で行っている「説明内容」を、授業記録からおこして紹介をしております。再び、報道発表資料の方をご覧ください。「4 今後について」のところでございますけれども、作成したモデルプランは、今月中に県内の国公私立の学校に配付をして、県教育委員会のホームページでも公開をいたします。8月には生徒指導者の担当者を集めて、モデルプランを活用した授業のための研修会を県内6か所で開催をする予定にしております。学校でも、モデルプランの活用をどんどん使ってくださいということで促進していきたいという風に考えております。それが1つ目です。

2つ目が埋蔵文化財センターの30周年公開考古学講座の件でございます。三重県埋蔵文化財センターは、本年度設立30周年をむかえます。30周年を記念し、本年度は様々なイベントの開催を予定しておりますが、本日は本年度最初のイベントでございます、「公開考古学講座」について発表をいたします。なお、30周年を記念する様々なイベントの情報については、お手元に配布をしておりますリーフレット、年間行事案内でございますけれども、これに詳細を紹介しておりますので、後ほどご覧いただければという風に思います。それでは、報道発表資料をご覧ください。公開考古学講座は平成19年度から開催して、今回5月で通算74回を数え、考古学ファンなどに、毎回好評を得ているものでございます。本年度は、30周年ということで、埋蔵文化財センターが平成の30年間に行った、750件以上の発掘調査の中から、「日本最古の土偶が見つかった松阪市の粥見井尻遺跡」や「日本最古の庭園が見つかった伊賀市の城之越遺跡」など、日本や三重県の歴史において注目を集めた選りすぐりの遺跡12遺跡を選び、9名の講師による全5回の講座を開催する予定としております。5月11日に開催する第1回の考古学講座では、櫛田川のそばで水と格闘しながらも、水のめぐみを利用した人々の暮らしを伝える朝見遺跡・中坪遺跡・堀町遺跡と、櫛田川の中流域で見つかった縄文人の集団墓地大原堀遺跡の4遺跡について調査に携わった担当者自らが報告をいたします。朝見遺跡では、「洪水が起きないように」と祈ったと思われるまつりに使われた可能性のある青銅の鏡が2枚並んで溝から出土をしたり、「平成」と書かれた、ここがございますけれども、「平成」と書かれた土器が見つかったりしました。「平成」は「たいらになる」という意味を示し、平穏な環境になるという意味が込められていた可能性が考えられます。また、中坪遺跡では大規模な奈良時代の堰が発見され、この地域一帯で100基以上の井戸も確認をされております。一方、中流域に位置する大原堀遺跡では縄文時代晩期、今から3,000年前の土器の棺が14か所で確認され、当時のお墓の様子が明らかとなってまいりました。第1回の講座では、このような調査結果を踏まえて、櫛田川流域の歴史と人々の生活について、迫ってみたい

という風に思っております。また、講座会場では、各遺跡から出土しました、「平成」と書かれた土師器、先ほど言いましたが、土師器、それからこれですけど、棺として使われていた40センチを超える縄文時代の深鉢などの出土品を、展示をいたします。是非、この機会に、地域の出土品に触れていただきたいと思っております。

発表は、以上2件でございます。お願いいたします。

発表項目に関する質疑

○いじめ防止の授業のモデルプランの作成

(質) いじめのモデルプランの作成について、平成30年度に公立小中高等学校18校で実施してきたとのことですが、希望した18校なのか、研究者で選んだのかどちらでしょうか。

(答 生徒指導課) いじめ予防授業を行う学校を所管する市町教育委員会と協議のうえ、市町教育委員会で選定いただいたものです。中には希望でというところがあったと聞いていますし、中には市町教育委員会から各学校にお声がけさせていただいたと聞いております。

(質) これは小・中・高6校ずつという理解でよろしいでしょうか。

(答 生徒指導課) 小学校が11校、中学校が5校、高等学校が2校です。

(質) 今回のモデルプランを県内の学校に配布して取組を促すということですが、取組を評価する仕組みについてどう考えられているのでしょうか。

(答) 成果をどうやって図るということですか。そこまでは実はまだ。

(答 生徒指導課) 現在のところ、ワークシートやモデルプランの効果測定を行っていくということについてはそこまで考えていなくて、普及の方に力を入れてやっていかなければいけない、作るだけではなく研修も思っているところですけど、実際に先生が使ってどうなんだというお声については、その次に考えさせていただこうかなというところで、まだ具体的な話にはなっておりません。

(答) とにかく、昨年度の4月から条例が施行され、4月と11月がいじめ防止強化月間ということで、配布にとどまってはいけないんですけど、これを使ってほんとにいい授業をしてもらうことに注力したいということで、その後の評価という方法のところまではまだいっていないのが現実でございます。

(質) 教育長の立場で、この取組に対する期待とか課題は。

(答) いじめの条例ができたというだけではダメですし、県民の皆様が条例ができて傍観者にならずにみんなで助けるというのが大事なんですけど、弁護士という専門家の方をいれた授業で、専門家の視点をいれて、専門的に役に立つものができたということにはすごく期待していて、こうした方がいいよとの専門家の意見が書かれていますので、ひとつひとつ噛みしめながら担当する授業の教諭には読んでやっていただきたいなと思います。ほんとにバイブルというか、座右というか、そういう風に期待をしています。

(質) これは授業にどう使うんですか。

(答) 何の授業にとか、そういうことですか？

(答 生徒指導課) 実際の道徳教育にかかわる授業であったり。

(質) 高校でも道徳教育なんですか。学校別にちゃんと言ってもらえます。小・中・高校それぞれ。

(答 生徒指導課) 小中学校では総合的な学習の時間、学級活動の時間。高等学校では、同じく総合的な学習の時間、ホームルームの時間などが主な活用の場面かと考えています。

(質) それで、どう使うんですか。

(答 生徒指導課) 実際、ワークシートの事例を取り上げていただき、子どもたちと話をしながら子どもたちの意見を引き出ししていただいたり、話し合っていたりということを進めていただければと思っています。

(質) 29年度の事業ですよ、そもそも。

(答) 始めたのは29年度からですね。

(質) このワークシートは29年度末に出来ている訳ですよ。このワークシートを見るに、三重県だけの事業ではないではないですよ。もっといえば、これだけのワークシートがあれば、早速いろんな学校でやればいいのに、結局そこからこれに対するガイドを作るのに1年かかるのは、いじめがこれだけ社会的に問題となっている中で、いかにも教育委員会らしいというか、あまりにもスピードが遅い。これだけのものがあれば、去年から使えばいいじゃないですか。29年度に予算が執行されているものなのに、何故1年以上も普及までに時間がかかっているのか。

(答) 全ての答えになっていないかもしれませんが、29年度に国の事業として採択をさましたので、どこの県でもやっているとお言葉がありました、それは違います。

(質) 少なくとも、高槻市も同じ時期に採択を受けているでしょ。

(答) 各自治体によってどういうものにするかは、各自治体の工夫により、うちはこういう形ですとしています。

(質) 29年度には出来てるわけでしょ。

(答) 29年度に本書(ワークシート)ができています。

(質) なんで改めて1年かけてガイドブック作るんですか。そうであるならば、29年度の事業があまりにも不完全なような気がしますし、29年度だけで完結して30年度頭から使うようなものがないのはなぜなのか。

(答) 29年度に事業に採択されて、29年度をかけてこういったワークシートを作りました。30年度においては、同じく「スクールロイヤー」の事業で、弁護士を交えた出前事業を深めた形でしたので。

(質) なんで深めなきゃいけないんですか。29年度の段階でちゃんとしたものを作ればいいじゃないですか。29年度に作ったものがあるのに、また1年かけてマニュアルを作っているのがあまりにも二度手間な感じがするし、そんなことをしなきゃいけないものなんですか、ということです。見たところ、ワークシートを使って授業することは難しいようには思えないんですけど。

(答) いじめについては、非常に若い教員もおり、先ほどどのような教科でやったらいいかというご質問もあったんですが、どうやったらいいのかということについて、なかなか伝えられるものではないので、こういった手段的なものを作らせていただいたというのは事実です。

(質) ぱっと見たところ、ワークシートとモデルプランで何が違うんですか。そんなに違いがあるようには思えないんですけど。

(答) これは活用のリーフレットという風に、ご理解いただければと思います。

(質) ワークシートにも指導法が書いてあるじゃないですか。

(答) もちろんもちろん。教師用と書いてありますので。

(質) わかりましたから、何故これが必要なのか改めて教えてください。

(答) より良く汎用的に使っていただくように纏めました。

(質) どうより良く汎用的になっているんですか。

(答) 分かりやすくしたということです。

(質) どう分かりやすいのですか。

(答) 例えば4ページを見ていただきますと、意図せず傷つけてしまうケースがあったときに、こういう風に授業を行えばよいという、具体的に。

(質) ワークシートに書いてあるじゃないですか。

(答) このリーフレットを作ることによって、分かりやすさを基本にし、代表的な事例を取り上げて、みんなに見てもらえるようにしたということです。

(質) やっぱり、29年度にワークシートを作って、30年度にモデルプランを作る価値が伝わってこない。ほとんど焼き直しているだけにしか見えないんですが。

(答) 担当者から、もう少し詳しく説明できることがあれば。

(答 生徒指導課) ワークシートは結構ページ数もありますし、一生懸命作らせていただいたんですが、それだけではなかなか手に取ってもらえない、進めていただく際に躊躇される先生方もいるかなと思います。また、教科ではありませんので、それぞれの先生方の経験に依拠するところであるため、改めて実際どういう風に授業を進めたらよいかという点について、弁護士の先生のご意見を頂きながら、より分かりやすい授業になればという、そういう気持ちで作成しました。ご指摘の点については、真摯に受け止めさせていただきます。

(質) 今話を聞いても、具体的に何がどう違うかがよく分からない。29年度に国の予算を使ってこういうことをやってるんですけど、廣田教育長は誇っていらっしゃいましたよね。なぜそれが、1年間もかかって、もう一個マニュアルを作ってるだけのように思えるわけです。これだけいじめが問題になっているときに、なぜ、30年度頭からよーいどんで使いだせなかったのか。そこについて説明してください。

(答) このワークシートは、各学校でもう既に色んなところで使っているという事実まで把握していますか？

(答 生徒指導課) 数として把握していませんが、学校で使われていると聞いています。

(答) それは調査まではしていないということですか？

(答 生徒指導課) そのとおりです。

(答) 確かに、これは誇らしげに言わせていただいたものなんですが、板書の仕方とか、もっと親しみ易いリーフレットにするために作ったということでご理解いただければと思います。モデルプラン作成についても国の事業の活用です。31年度も、国の事業の活用で、また新たないじめに関する弁護士を活用した事業を考えようと、今企画中です。

その他の項目に関する質疑

○定例会の議題について（博物館条例等について）

（質）博物館の条例とか、図書館とか、これは情報共有の意味で議題として出したのか。所管はもう環境生活部で違うじゃないですか。これを教育委員会の議題に出していることは、単に情報共有のために出しているのか。

（答）条例そのものは、教育委員会なんです。なので、実際に事務を司っている所管の部局がこのように変えたいと条例の文章を考えますが、条例の文面を変える処理は教育委員会が行います。

（質）形的に窓口になっているだけですよね。もともと博物館を作るときに、教育委員会にあったものを知事部局にもっていった訳だから、それからいくと、博物館が完成して第2ステージに入っているのに、いつまでも知事部局のままでいいのか、教育委員会に戻すのかという議論もあると思いますが。審議員等は重なっているじゃないですか。教育委員会に元に戻して運営していく方がやりやすいのか、あるいは今のまま知事部局に残すのかという議論については、知事部局と行っていますか。

（答）具体的にはやっていないですけど、国、文部科学省の方も、そのようなお考えがあると話をお聞きしておりますので、なにかチームを設けてという訳ではないですけど、機会があるごとに、本来どちらの方があった方がいいのかという話は常に出てきていて、結論が出ないまま話をしているというのが現状です。

（質）教育長としては、どうお考えですか。

（答）難しい質問ですけど…、中立的に立つには、教育委員会が持っていた方がいいとかあるんですけど、やはり、私自身は実際に活用するところが条例も持ってやっていくのがいいのかなど。その活用するところが、首長部局なのか、あるいは教育委員会の方がいいのかというもう一つの原点のところは、ちょっとまだどちらがいいのかというのはあります。教育委員会がもったらもったで、非常に狭い範囲でしかものが考えられないと思いますし、かといって、首長部局にいくと逸脱したようなことも考えられるので…、今のところ、AかBかという選択の中での答えを持ち合わせておりません。

（質）単純に条例の問題だけでなく、運営のそのものを元々教育委員会がやっていたものを、博物館建設のために知事部局にいったじゃないですか。図書館は本来教育委員会に残しても良かったかもしれないが、セットで出て行った。運営中心になるならば、教育委員会が所管してもいいという考え方もありますよね。条例の部分だけでなく、本体そのものについて、教育委員会が引き継いでもよい、元に戻してほしいというのはないのか。

（答）今のところ、元に戻してほしいというところまではありません。ただ、図書館の運営とかいろいろ考えるときに、教育委員会にあれば縦に流れやすいのにと、事業執行の段階で考えたことはあります。でも、戻してほしいと言い切るような論拠もないですし、今のところそこまでの考えに至っていません。

（質）もうこのまま行くということやね。条例に関しては、教育委員会が形式的にやるのではなく、本来主体的にやってるところ、環境生活部などがやってもいいのではないかと思うということではいいですか。

（答）そう思います。実際に動かしていないのに、形式的に文面のところだけやるというのはやっぱりちょっとおかしいと思います。ただ、本体をどこがもてばというのはちょっ

と。ただ、私も過去の経緯を知らない訳ではありませんので、それまでの皆さんが考えた結果がこういう形で、今のところベストとベターになっているという風に思いますので、それが正しいのではないかと考えています。

発表項目に関する質疑

○平成31年度第1回公開考古学講座の開催

(質)そこに展示している、平成とかかれた土師器は常設で展示しているものでしょうか。

(答 埋蔵文化財センター) 常設では展示しておりません。

(質)今回代わりだから展示しているのか。特別に蔵出ししましたという感じですか。

(答)750件は、時期によってところどころ変えて展示している感じですか？

(答 埋蔵文化財センター) 展示については、毎年埋蔵文化財展とか、それぞれの庁舎でミニ展示等を行っていますが、その時その時のテーマにあわせて選んでいます。例えば、庁舎であれば、農林部局のもの、建設部局のものと、そういうのをしてみたり、時代を決めてしてみたりしています。

(答)今回は30周年ということで、ある意味蔵出しの感じですよ。

(答 埋蔵文化財センター) そうです。

(質)ちょうど、改元なので展示したらよいのにと思いました。

(答)ネットの記事で過去にNo.1になったことがあるようです。平成、「ひらなり」なのか、「へいせい」というのか、「たいらになる」というのか呼び方は分かりませんが。

(質)全5回の講座で毎回、この「平成」という土師器が展示されるのか。

(答 埋蔵文化財センター) これは、第1回のみです。

(以上) 16時30分 終了